

なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい＝ひと休み)



市ホームページ「うらそえボックス」
にも市内のできごとを紹介しています。



1/7 長年の地域貢献に感謝を込めて

港川自治会前会長の銘苅全郎さん(左から2番目)と牧港ハイツ自治会長の大城清勇さん(右から2番目)が、「自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰」を受賞しました。この賞は、自治会などの地域の代表として長年活動し、地域に貢献した人に対し、総務大臣より贈られるものです。22年間自治会長を務めた銘苅さんは「自治会長の皆さんには、子どもたちの社会教育活動を自治活動の基盤にして、社会のさまざまな課題解決に大きな役割を果たしてほしい」と話し、自治会長を16年務める大城さんは「56年前、船乗りをしながら世界を周った経験から学んだ人助け精神で、これからも体調に気をつけながら頑張りたい」と今後の意気込みを述べました。



“すべては笑顔のために” やなえもんのいのちの授業

県出身のやなえもんさんが6月から12月にかけて市内11の小学校で「いのちの授業」を行いました。やなえもんさんは、子どもたちにペットを飼うルールやマナー、人の心を大切に作る「いのちの授業」、大人向けには「やなえもんが見た現実」と題し、子どもたちと触れ合う中で見えてきたさまざまな社会問題・心の叫びの現状と、その向き合い方について講話を行っています。講話の中で「もし、自分が同じ立場なら?」と何度も問いかけ、子どもたち自身が命の尊さを考える場面があり、当山小学校5年の高江洲結心さんは「人間だけではなく、動物たちにも傷ついたり、喜んだりする心があるので、人間でも動物でも、相手の心のことをよく考えて行動したい」と話しました。



12/17 若い世代に献血の呼びかけ

地域貢献活動の取り組みの一つとして、献血の認知向上を目的に、およそ半年間をかけて「献血」啓発ポスターを作成した沖縄県立浦添工業高校デザイン科3年の生徒7人が、作成報告のため松本市長を表敬しました。

「君の勇気が未来をつなぐ力になる」(写真:右)のキャッチコピーでポスターを作成した玉城育人さんは「手をつなぐ人の肌の色を変えることで、どんな人でも献血はできる。赤い文字を血管に見立てて、誰かにつながっていくことを表現した」と制作時のポイントを話しました。

12月18日・19日に市役所で行われた献血を皮切りに、生徒たちのポスターは県内の献血会場などで掲示される予定です。



12/19 思いを込め、哀悼の舞を披露

犯罪被害者等が置かれている状況や社会全体で犯罪被害者等を支える必要性について理解を深めることを目的に「犯罪被害者等支援パネル展」が12月16日～20日の間、市役所1階ロビーで行われました。

展示会に足を運んだ宮城恵子さん(玉城流踊り飛琉宮城恵子琉舞道場)はパネルを見て感慨にふけ、「涙そうそう」の曲に振り付けをし、門下生の小中学生6人が被害者への思いを込めた舞を披露しました。

2019年、池袋での乗用車暴走事故で娘の松永真菜さん(当時31歳)と孫の莉子ちゃん(当時3歳)を亡くした上原義教さんは「莉子ちゃんは踊ることが好きだった。天国で喜んでいと思う」と感謝を伝えました。



12/25 台湾での少年野球大会 優勝報告

11月30日～12月2日に台湾の台東市で開催された「2024年第31回台湾野球大会ケアカップ」で6試合を勝ち抜き、見事優勝した前田ホークスが松本市長を表敬訪問しました。前田ホークスは「第10回トロピカル沖縄交流大会・宜野湾市長杯」で優勝し、その代表として台湾大会へ派遣されました。キャプテンの仲宗根湊翔さん(前田小6)は「浦添から応援ありがとうございました」と優勝報告をしました。

コーチの仲間烈さんは「試合前日の移動は夜遅くに到着し、疲れもあったと思うが、海外の地でよく頑張ってくれた」と選手らを称え、松本市長は「浦添の、沖縄の、そして日本の代表として優勝したことは素晴らしい。野球を通して国際交流も続けてほしい」と称賛しました。



12/15 文化財を学んで育む、地域への愛着

地域の文化財に興味を持ってもらい、文化財を子どもたちの心のよりどころをすることを目的に、「沢岷イリヌカー」(市指定史跡)の発掘現場見学会を実施しました。

沢岷イリヌカーは、琉球王国時代に国王への納め物であるエビやウナギなどの生き物を飼育するために使用されていた湧き水のことです。

市職員の話聞いた新垣夢菜さん(中学3年)は「説明がわかりやすく、沢岷の人が昔どんな暮らしをしていたのかを知ることができた」、新垣芹奈さん(高校3年)は「自分の住んでいる地域の文化財なので、歴史の教科書で学んだことよりも身近に感じた」と話し、沢岷に残る歴史に思いを馳せる良い機会となりました。



12/5 地域に寄り添い31年、瑞宝双光章受章

中部南保護区保護司会浦添市支部の保護司として31年間活動し、瑞宝双光章を受章した浦崎猛さん(72歳)が市役所を訪れ、松本市長に受章の報告をしました。

瑞宝双光章とは、長年にわたり公務等に従事し、成績を挙げた人に授与されるものです。浦崎さんは「市内の中学校でPTA会長を勤めたことをきっかけに保護司となり、活動を通してたくさんの人の更生に携わることができた。地域のために残り4年の任期も全うしたい」と受章の喜びを話し、松本市長は「保護司として地域に寄り添い、保護観察対象者に真摯に向き合う姿勢が受章につながった。これからも、他の保護司の目標として頑張っていたきたい」と称賛の言葉を送りました。